

漢字学習の意欲に影響する要因

— ラオス国立大学及びヤンゴン外国語大学の調査結果の比較検討を通じて —

栗原 由加、関 かおる¹

キーワード：ラオス、ミャンマー、非漢字圏²の学習者、漢字学習、「楽しい」

1. はじめに

本研究は、非漢字圏出身の日本語学習者が増加する中で、「難しい」とされる漢字学習をどのようにすれば「楽しい」に転じさせることができるか、非漢字圏での漢字学習の実態調査を通じて、その方策を考えることを大きな目的としている。

筆者2名は、2016年9月9日にヤンゴン外国語大学（ミャンマー）を訪問し、日本語学習者にアンケート及びインタビュー調査、併せて大学教員にインタビュー調査を実施し、学習者にとっての「好きな漢字」「覚えやすい漢字」という観点から、習得漢字を分類した。また調査結果から、漢字学習には「楽しさ」もあることを示した（栗原、関 2017）。

そして2017年9月8日に、ヤンゴン外国語大学に続く調査として、ラオス国立大学において、漢字学習に関するアンケート及びインタビュー調査を行った。本稿は、ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学での調査結果を比較検討し、日本語学習者にとっての漢字学習への意欲についての考察を更に深めるものである。

2. ラオスの日本語教育事情の変遷

ラオスは ASEAN 加盟国の中で唯一の内陸国で、周囲を中国、ベトナム、ミャンマー、タイ、カンボジアの5か国と隣接している。フランスから独立した後、度重なる内戦やベトナム戦争の影響を受けた後、1975年に現在のラオス人民民主共和国となったが、インドシナ半島の中でも人口、経済などの規模が一番小さい国である。国連の基準では後発開発途上国に分類されているが、国を南北に縦断しているメコン川と国内に広がる山岳地帯、高原という地の利を生かし、水力発電による電力をタイに輸出している。ラオス政府は2020年までに後発開発途上国からの脱却を目指してはいるが、山岳地帯、高原に残されたベトナム戦争時代の不発弾の実態把握が進んでいないこと、またこの処理をしないと見きった開発ができないことなどが障壁となり、貿易収支も赤字が拡大しているようだ。日本企業にとってのラオスは、製造業の労働力供給源として期待されているが、第2次、第3次産業向けの人材確保という意味では2016年度の独立行政法人日本貿易振興機構の調査でも「従業員の質」「中間管理職の採用難」などが大きな課題として挙げられている。政府が掲げる国民の教育水準の底上げが待たれるのもこのためであろう。

このような状況でのラオスにおける日本語教育事情は非常に複雑である。首都ビエンチャンでは、1965年から青年海外協力隊による日本語教育が盛んに行われたようであるが、1975年の革命を境に日本語教育はまったく実施されなくなった。1995年にラオス国立大学基礎教育課程に日本語コースが開設されたが、一旦2005年に閉鎖になった。並行して2003年9月に同じラオス国立大学文学部に日本語学科が設立され、2016年までに9期生を数え、2017年9月には10期生16名が卒業すると聞いた。現在ラオス国内における日本語学習者は500人前後いると見られているが、その多くは首都ビエンチャンで学習している。同大のキャンパス内のラオス日本センターでも日本語クラスが開講されており、公的機関や民間の日本語学校でも日本語クラスが開講されるようになってきているようだ。

今回インタビューでお世話になったのが、このラオス国立大学 Dondok 校である。空港からタクシーに乗り「Dondok」と言えば、このキャンパスに連れて行ってもらえるぐらい有名な、ラオス唯一の総合大学である。学生になぜ日本語を学習するのかと尋ねたところ、多くは日本語ができるようになると卒業後の就職が有利になることを挙げていた。これは、ラオスが現在、日本企業の新たな進出先、製造拠点として注目されつつある国であり、ラオス国内でも日本の中小企業向けの経済特区が整備されるなど、ビジネスの環境が整いつつあることが背景にある。このような事情により、ラオスの現在の日本語学習者数は、絶対数こそ少ないものの、その伸びには注目すべきものがある³⁾。

学生の中には、すでに留学経験のある学生も数名おり、その中には、学費の援助を得るために僧侶になったことで、日本のお寺に修行に行ったという者もいた。教員へのインタビューでは、学生が日本語学習に真摯に取り組み、将来学んだことが活かせるようになりたいという強い希望を持っていると聞いたが、その強い気持ちは、インタビュー調査の中で何度も確認することができた。前回インタビューを行ったミャンマーほどではないが、ラオスへの日本企業の進出は今後増えることが予想され、それに伴い日本語ができる人材確保が急務になってくると思われる。

3. 先行研究

日本語学習者の漢字記憶のプロセスを明らかにするための調査方法に、加納ほか(1989)が行った自由放出法がある。これは、日本語学習者のための効果的な漢字学習方法の検討を目的として行われた調査であり、制限時間を設け、被験者に頭の中に浮かんでくる漢字を自由に書き出させ、出力された漢字の時間的変化や、どのような漢字が出力されたか、また連続的に出力された漢字どうしの関係から被験者の連想の傾向を見するという手法である。加納ほか(1989)の調査結果からは、日本語学習者の漢字学習において、以下1)の指摘が行われた。

- 1) 日本語学習者による漢字の出力理由は、大きく形態的連想と意味的連想の二つである。

ここで「形態的連想」とされているのは、「食・飲」のような部首による連想のこと、また、「木・本」のように字形が似ている連想のことである。そして「意味的連想」とされているのは、「月・火・水」などの名詞語群、「話・聞」のような共に現れやすい語の対、「学生」の「学・生」のような熟語の対による連想のことである。

加納ほか（1989）の研究を受けて、伊藤ほか（1999）は、同じく自由放出法の調査を行い、日本語学習者による漢字の出力理由と日本語力との関係について、以下2）の指摘を行った。

- 2) 形態手がかり（加納ほか（1989）の形態的連想）、意味手がかり（加納ほか（1989）の意味的連想）のどちらがよく使われるかは、被験者の日本語力と関係がある。漢字能力の向上に伴って形態手がかりより意味手がかりの方が多く用いられるようになる。

しかし、加納ほか（1989）、伊藤ほか（1999）も指摘しているように、自由放出法には、漢字の出力理由の収集方法に限界があり⁴、被験者が漢字を出力した理由を正確に収集することが難しい。そこで、筆者らは、自由放出法を参考にしながら、被験者が漢字を出力した理由を網羅的に収集するために、まず、日本語学習者にアンケート用紙を配布し、その場で思いついた「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を5つずつと、それを挙げた理由を被験者自身に記入してもらい、その後記載内容等についてインタビューを行うという手法をとった。

本稿は、筆者らの調査方法により収集したデータをもとに、改めて日本語学習者の漢字学習の意欲に影響する要因について検討するものである。まずは、加納ほか（1989）が提示した上述の1）の指摘、また、それを受けて伊藤ほか（1999）が提示した2）の指摘について検討する。加えて、以下3）の仮説を立て、本調査結果から検証する。

- 3) 日本語学習者の漢字、漢字語彙の出力理由には、学習者自らの出身地域、母文化、学習目的が反映される。

4. 調査概要

4.1. 調査対象

〈ラオス国立大学〉

| | |
|----------|---------------------------------|
| 所属 | 文学部 |
| 学年 | 3年生、4年生 |
| 調査日 | 2017年9月8日 |
| 調査対象の学生数 | 35名 |
| 日本語能力試験 | N2:1名、N3:2名、N4:6名、N5:3名、未受験:23名 |

〈ヤンゴン外国語大学〉

| | |
|----------|-------------|
| 所属 | 日本語学科 |
| 学年 | 3年生 |
| 調査日 | 2016年9月9日 |
| 調査対象の学生数 | 8名 |
| 日本語能力試験 | N2:4名、N3:4名 |

4.2. 調査方法

1) アンケート調査

アンケート調査方法については、ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学とも同じである。

- 質問者は、学生全員に教室で対面し、調査の趣旨を説明し、アンケート用紙を配布した。
- 学生は、アンケート用紙に、その場で思いつく「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を上限5個記入した。また、記入した漢字、漢字語彙の隣の欄に、その漢字、漢字語彙を選んだ理由を記入した。

2) インタビュー調査

- アンケート用紙への記入が終わった学生から順番に、アンケート用紙を見ながらインタビューを行った。

〈ラオス国立大学〉

4~5名ずつのグループで、インタビューを行った。質問者2名（筆者）は、それぞれ合計17名、合計18名のインタビューを担当した。

〈ヤンゴン外国語大学〉

学生と質問者が1対1でインタビューを行った。質問者2名（筆者）は、それぞれ合計4名ずつのインタビューを担当した。

• インタビュー内容

インタビューでは、以下の9つの質問を行った。

質問1：あなたの好きな漢字は何ですか。その理由は何ですか。

質問2：あなたにとって、覚えやすい漢字は何ですか。その理由は何ですか。

質問3：漢字の勉強のために、家ではどれぐらいの時間をかけて勉強していますか。

質問4：1週間で、何文字ぐらい覚えられますか。

質問5：漢字をどのような方法で覚えていますか。

質問6：漢字を覚えるための良い方法、覚えた漢字を忘れないための工夫を教えてください。

質問7：漢字の勉強で、楽しいことは何ですか。

質問 8：漢字の勉強で、難しいことは何ですか。

質問 9：大学を卒業したら、どうしたいですか。

上記質問 1、2 は、アンケートの回答内容を確認するための質問、質問 3 から 8 は被験者の現在の漢字学習状況を確認するための質問、質問 9 は、被験者の日本語学習目的を確認するための質問である。なお、本稿では、「3. 先行研究」で挙げた 1) 2) の検討のために、上記質問 1、2 の回答を、また 3) の検討のために、上記質問 9 の回答を分析対象とする。

5. アンケート及びインタビュー結果

5.1. 「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由の分類方法と結果

「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由の分類方法を、以下「表 1：「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由の分類方法」に示す。本分類方法は、栗原、関（2017）におけるヤンゴン外国語大学での調査結果の分類をベースに、先行研究及びラオス国立大学での調査結果を反映させ、改めて整理したものである。

表 1：「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由の分類方法

| 分類項目 | 分類方法詳細 |
|--------------------------------|---|
| ①意味 1 (価値観) | 学生が、その漢字が表す意味、概念が好きな漢字。特に、自分が大切にしている価値観を表す漢字。 |
| ②意味 2 (好きなもの、身近なもの、興味があるもの) | 学生が好きな物を表す漢字。特に、身の回りの好きなもの、身近なもの、興味があるものを表す漢字。 |
| ③パーツ | 漢字の一部分に、既に知っているパーツがある漢字。あるいは、パーツそのものの漢字 ⁵ 。 |
| ④形 | ストローク数が少なく、書きやすい漢字。象形文字のように、漢字の形をストーリーで理解できる漢字。 |
| ⑤熟語 | その漢字を使って漢字熟語が作りやすい漢字。一つ覚えておくことで、効率的に漢字熟語のバリエーションが増える漢字。 |
| ⑥頻度 | 日本語学習の際によく出てくる、また使う漢字。 |
| ⑦属性 | 名前、生まれた曜日、干支、性格、年齢など、自分の属性を表すために使う漢字。 |
| ⑧学習順 | 日本語学習における学習順位が早い漢字。あるいは、学生自身の漢字学習において、学習の順番が早かった漢字。 |
| ⑨読みやすさ | 学生のこれまでの日本語学習においては、複数の読み方が出てこなかったため、読み方を覚えやすかった漢字。 |
| ⑩その他の興味 | 上記①～⑨以外 |

これらの項目別に、被験者が挙げた漢字、漢字語彙の延べ語数と割合をまとめたものが、以下の「表 2：被験者が挙げた漢字、漢字語彙の延べ語数と割合」である。なお、表 2 の括

弧内にパーセンテージ記号を付けて表示している数字は、各区分に分類された漢字、漢字語彙の語数の延べ語数に対する割合を百分率で計算し、小数点以下を四捨五入⁶した数字である。

表2：被験者が挙げた漢字、漢字語彙の延べ語数と割合

| 分類項目 | ラオス国立大学 | | ヤンゴン外国語大学 | |
|-----------------------------|---------------------|-----------------------|--------------------|----------------------|
| | 好きな漢字 (合計 165 個) | 覚えやすい漢字 (合計 161 個) | 好きな漢字 (合計 36 個) | 覚えやすい漢字 (合計 36 個) |
| ①意味 1 (価値観) | 22 個 (13%) | 0 個 (0%) | 15 個 (42%) | 0 個 (0%) |
| ②意味 2 (好きなもの、身近なもの、興味があるもの) | 79 個 (48%) | 27 個 (17%) | 9 個 (25%) | 3 個 (8%) |
| ③パーツ | 5 個 (3%) | 4 個 (2%) | 7 個 (19%) | 7 個 (19%) |
| ④形 | 23 個 (14%) | 70 個 (43%) | 0 個 (0%) | 7 個 (19%) |
| ⑤熟語 | 0 個 (0%) | 0 個 (0%) | 5 個 (14%) | 0 個 (0%) |
| ⑥頻度 | 24 個 (15%) | 49 個 (30%) | 0 個 (0%) | 14 個 (39%) |
| ⑦属性 | 8 個 (5%) | 4 個 (2%) | 0 個 (0%) | 0 個 (0%) |
| ⑧学習順 | 3 個 (2%) | 3 個 (2%) | 0 個 (0%) | 3 個 (8%) |
| ⑨読みやすさ | 0 個 (0%) | 4 個 (2%) | 0 個 (0%) | 0 個 (0%) |
| ⑩その他の興味 | 1 個 (1%) | 0 個 (0%) | 0 個 (0%) | 2 個 (6%) |

5.2. 「好きな漢字」

次に、以下「表3：「好きな漢字」(ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学)」に、ラオス国立大学の被験者が挙げた「好きな漢字」と、ヤンゴン外国語大学の被験者が挙げた「好きな漢字」を、表1の分類に従って五十音順に示す。複数の被験者が挙げた漢字、漢字語彙については、漢字の隣の括弧内に回数を記載した。被験者が漢字、漢字語彙を全く挙げなかった項目については、欄内に斜線を引いた。

表3：「好きな漢字」（ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学）

| 分類項目 | ラオス国立大学 | ヤンゴン外国語大学 |
|-------------------------------|--|--|
| 複数回挙がった漢字 | 愛(5)、雨(6)、行(2)、家(5)、犬(5)、海(3)、金(6)、川(4)、木(3)、車(2)、語(4)、魚(2)、好(5)、食(3)、父(5)、月(2)、時(2)、年(2)、友達(2)、花(5)、母(10)、人(4)、本(3)、学(2)、見(2)、水(2)、休(2)、山(5)、雪(3)、夢(2)、料理(2)、私(3) | 愛情(2)、幸せ(2)、楽しい(2) |
| ①意味1 (価値観) | 愛(5)、家、命、思、家庭、金、来、国、心、幸、発音、人、平和、毎日、安、友好、夢(2) | 愛、愛情(2)、家族、幸い、幸せ(2)、自信、正直、素直、楽しい(2)、忍耐、勇気、優勝 |
| ②意味2 (好きなもの、身近なもの、興味があるもの) | 間、雨(3)、家(3)、犬(5)、海(3)、形、金(4)、木(2)、車(2)、語、米、魚(2)、桜、好、関、先生、爽、育、食(2)、父(4)、冷、友達(2)、日、猫、花(4)、母(9)、星、本(3)、学(2)、水(2)、持、休(2)、山(4)、雪(3)、留学、料理(2) | 黒、桜、月、椿、日本、日本語、花、文化、蘭 |
| ③パーツ | 雨、家、子、好(2) | 動、男、覚、働、見、眼、夢 |
| ④形 | 合、雨、行、会社、金、川(3)、木、口、父、月、電、年、中、花、母、人、目、物、山、有名、笑 | |
| ⑤熟語 | | 歌手、選手、手、左手、右手 |
| ⑥頻度 | 行、覚、帰、川、語(3)、上手、好、食、力、出、時(2)、年、何、日本、人(2)、毎、見(2)、私(2) | |
| ⑦属性 | 明、雨、牛、神、洪、火、良、若 | |
| ⑧学習順 | 今、好、私 | |
| ⑨読みやすさ | | |
| ⑩その他の興味 | 月* ¹ | |

*「月」：「月」は「好き」の発音と似ている」、という個別の理由が挙げられていた。これは、被験者が個別に記憶に残るようなエピソードを伴って覚えた漢字である。

5.3. 「覚えやすい漢字」

次に、以下、「表4：「覚えやすい漢字」（ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学）」に、ラオス国立大学の被験者が挙げた「覚えやすい漢字」と、ヤンゴン外国語大学の被験者が挙げた「覚えやすい漢字」を表1の分類方法に従って五十音順に示す。複数の被験者が挙げた漢字、漢字語彙については、漢字の隣の括弧内に回数を記載した。被験者が漢字、漢字語彙を全く挙げなかった項目については、欄内に斜線を引いた。

表4：「覚えやすい漢字」（ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学）

| 分類項目 | ラオス国立大学 | ヤンゴン外国語大学 |
|-------------------------------|--|---------------------------------|
| 複数回挙がった漢字 | 雨(4)、行(3)、一(2)、多(2)、女(2)、川(7)、木(3)、口(2)、国(4)、語(4)、心(2)、好(2)、食(3)、田(3)、大(3)、父(3)、月(3)、何(2)、日(2)、花(4)、母(3)、火(2)、人(5)、本(8)、学(2)、見(3)、水(5)、森(3)、山(9)、雪(2)、私(6) | 一(2)、人(2) |
| ①意味1 (価値観) | | |
| ②意味2 (好きなもの、身近なもの、興味があるもの) | 愛、雨、行、犬、海、家族、川、心、時間、食、父、月、花、話、母(2)、古、本、水(3)、森、山(2)、雪、留学、料理 | 幸、茶、花 |
| ③パーツ | 多、森(2)、雪 | 言、英、覚、草、親、働、見 |
| ④形 | 兄、雨(2)、意、一(2)、売、多、大、思、女、金、川(5)、木(3)、口(2)、国、車、黒、子、語、工、心、十、囟、田(2)、大(2)、高、玉、小、力、父(2)、月、出、二、日、齒、花、母、火(2)、日、人(5)、本、見(2)、水、未来、門、休、山(5)、分、私 | 女、心、十、白、千、力、二 |
| ⑤熟語 | | |
| ⑥頻度 | 新、行(2)、生、学、川、国(3)、語(3)、個人、食事、調、好(2)、食(2)、大、月、度、年、何、日、日本、日本語、飲、履、花、分、本(6)、学(2)、見、水、名、山(2)、私(5) | 学校、国、小、食、好、外、大、大学、年、日本、人(2)、分、若 |
| ⑦属性 | 雨、女、花、太 | |
| ⑧学習順 | 永 ^{*2} 、学生、大学 | 一(2)(漢数字)、学 |
| ⑨読みやすさ | 田、寺、何、部 | |
| ⑩その他の興味 | | 正、私 |

*2 「永」：漢字学習の際の最初の練習字として「永」を習ったということである。

6. 考察

6.1. 漢字、漢字語彙の出力理由について

ここで、本稿における一つ目の関心事項として、被験者が漢字、漢字語彙を出力する際、どのような理由が多いのかについて考えてみたい。本稿では、被験者が漢字、漢字語彙を出力する際の理由を表1のように10分類しているが、まずは、従来からの研究の流れの中に本研究の調査結果を位置づけるため、「意味」「形」と「それ以外」という枠組みで、漢字、漢字語彙の出力理由について考えたい。「意味」「形」という枠組みで考えるにあたり、従来

の研究では、本研究が分類項目として立てている「①意味（価値観）」「②意味（好きなもの、身近なもの、興味があるもの）」「⑤熟語」「⑦属性」は、「意味」に含めて議論されてきた項目であり、「③パーツ」「④形」は、「形」に含めて議論されてきた項目であるため、ここでは一旦、①②⑤⑦をまとめて「意味」、③④をまとめて「形」として、議論を進める。

まず、大学ごとの全体像をつかむため、調査結果全て（「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を全て合わせた延べ語数に対する出力理由）を対象に、分類項目ごとの出力理由数と割合を示す。

〈ラオス国立大学〉

- ・出力された全漢字、漢字語彙数：326
- ・漢字、漢字語彙の出力理由数：
「意味」140（内訳：①22、②106、⑤0、⑦12）、「形」102（内訳：③9、④93）、
「頻度」73、「学習順」6、「読みやすさ」4、「その他の興味」1
- ・分類項目ごとの割合：
「意味」43%、「形」31%、
「頻度」22%「学習順」2%、「読みやすさ」1%、「その他の興味」1% 未満

〈ヤンゴン外国語大学〉

- ・出力された全漢字、漢字語彙数：72
- ・漢字、漢字語彙の出力理由数：
「意味」32（内訳：①15、②12、⑤5、⑦0）、「形」21（内訳：③14、④7）、
「頻度」14、「学習順」3、「読みやすさ」0、「その他の興味」2
- ・分類項目ごとの割合：
「意味」44%、「形」30%、
「頻度」19%「学習順」4%、「読みやすさ」0%、「その他の興味」3%

上記のデータから、漢字、漢字語彙の出力理由の割合は、「意味」「形」の順に多いことがわかる。また、この2項目の割合は、両大学でほとんど変わらなかった。この結果は、従来の研究において、漢字、漢字語彙の出力理由としては「意味」と「形」が突出しているときれてきたことと相違がない。

ところが、上記割合の内訳として「好きな漢字」「覚えやすい漢字」のそれぞれの調査結果を見ると、「好きな漢字」を出力した場合と「覚えやすい漢字」を出力した場合とでは、明らかな違いがある。

〈ラオス国立大学〉

- ・「好きな漢字」
- ・出力された全漢字、漢字語彙数：165
- ・漢字、漢字語彙の出力理由数：
「意味」109（内訳：①22、②79、⑤0、⑦8）、「形」28（内訳：③5、④23）、
「頻度」24、「学習順」3、「読みやすさ」0、「その他の興味」1
- ・分類項目ごとの割合：
「意味」66%、「形」17%、
「頻度」15%「学習順」2%、「読みやすさ」0%、「その他の興味」1%
- ・「覚えやすい漢字」
- ・出力された全漢字、漢字語彙数：161
- ・漢字、漢字語彙の出力理由数：
「意味」31（内訳：①0、②27、⑤0、⑦4）、「形」74（内訳：③4、④70）、
「頻度」49、「学習順」3、「読みやすさ」4、「その他の興味」0
- ・分類項目ごとの割合：
「意味」19%、「形」46%、
「頻度」30%「学習順」2%、「読みやすさ」2%、「その他の興味」0%

〈ヤンゴン外国語大学〉

- ・「好きな漢字」
- ・出力された全漢字、漢字語彙数：36
- ・漢字、漢字語彙の出力理由数：
「意味」29（内訳：①15、②9、⑤5、⑦0）、「形」7（内訳：③7、④0）、
「頻度」0、「学習順」0、「読みやすさ」0、「その他の興味」0
- ・分類項目ごとの割合：
「意味」81%、「形」19%、
「頻度」0%「学習順」0%、「読みやすさ」0%、「その他の興味」0%
- ・「覚えやすい漢字」
- ・出力された全漢字、漢字語彙数：36
- ・漢字、漢字語彙の出力理由数：
「意味」3（内訳：①0、②3、⑤0、⑦0）、「形」14（内訳：③7、④7）、
「頻度」14、「学習順」3、「読みやすさ」0、「その他の興味」2
- ・分類項目ごとの割合：
「意味」8%、「形」39%、
「頻度」39%「学習順」8%、「読みやすさ」0%、「その他の興味」6%

「好きな漢字」を出力した時の理由は、両大学とも「意味」の割合が最も多い。一方、「覚えやすい漢字」を出力した時の理由は、この割合の順番が逆転し、「形」の割合が最も多い。この結果を見ると、被験者にとって「好きな漢字」の理由は意味重視、「覚えやすい漢字」の理由は形重視で出力されていると言えそうである。

また、本調査結果による新たな知見として、被験者による漢字、漢字語彙の出力理由の中での「頻度」の割合の高さを指摘したい。「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を全て合わせた延べ語数に対する出力理由の割合において、ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学とも、「意味」(約40%)、「形」(約30%)に続き、「頻度」(約20%)であり、「頻度」の割合は3番目である。更に、「覚えやすい漢字」に着目すると、ラオス外国語大学では、「形」(46%)に次いで「頻度」(30%)が2番目であり、ヤンゴン外国語大学では、「形」(39%)と「頻度」(39%)が同じ割合で1番目である。

「頻度」という項目が、従来の自由放出法による調査で抽出されなかった理由は何か、また「頻度」とは具体的にどのような経験のことを指すのかは、今後更に調査と検討が必要であるが、本稿では、「頻度」を漢字、漢字語彙の出力理由の重要な項目の一つであると考え、以降、「意味」「形」「頻度」を、漢字、漢字語彙の出力理由の三つの主要項目として論を進めたい。

6.2. 被験者の日本語力と漢字、漢字語彙の出力理由との関係

次に、本稿における二つ目の関心事項として、被験者の日本語力の観点から、漢字、漢字語彙の出力理由について考える。日本語能力試験の合格レベルで比較すると、ラオス国立大学の被験者は概ね初級、ヤンゴン外国語大学の被験者は概ね中級であると言える。従来の研究では「漢字能力の向上に伴って形態手がかりより意味手がかりの方が多く用いられるようになる」という見解が示されているが、ここで注意が必要なのは、ラオス国立大学において、複数回出力され、また、出力理由が複数の項目にまたがっていた漢字、漢字語彙の多さである。これは、ヤンゴン外国語大学の調査において、出力理由が複数にまたがる漢字、漢字語彙が0個であったことと、大きく異なる点である。

ラオス外国語大学における調査で挙げられた漢字、漢字語彙のうち、「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の両方にわたって、あるいは表1の分類項目①から⑦の複数にわたって出力理由が挙げられた漢字は、異なり語数で44個である。次の「表5：ラオス国立大学の調査における漢字の分類結果の重複状況」は、この44個の漢字、漢字語彙の出力理由の重複状況を、上述の6.1において、出力理由としての割合が高いと述べた「意味」「形」「頻度」に関連する項目に絞って一覧表示したものである。

表5：ラオス国立大学の調査における漢字の分類結果の重複状況

| | 漢字 | 好きな漢字 | | | | | | | 覚えやすい漢字 | | | | | | |
|----|----|--------------|--------------|----------|--------|---------|---------|---------|--------------|--------------|----------|--------|---------|---------|---------|
| | | ① 意味 1 | ② 意味 2 | ③ パーツ | ④ 形 | ⑤ 熟語 | ⑥ 頻度 | ⑦ 属性 | ① 意味 1 | ② 意味 2 | ③ パーツ | ④ 形 | ⑤ 熟語 | ⑥ 頻度 | ⑦ 属性 |
| 1 | 愛 | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 2 | 雨 | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ |
| 3 | 行 | | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | | ○ | |
| 4 | 家 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| 5 | 犬 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | |
| 6 | 海 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | |
| 7 | 多 | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 8 | 思 | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 9 | 女 | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ |
| 10 | 金 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 11 | 川 | | | | ○ | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 12 | 木 | | ○ | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 13 | 口 | | | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 14 | 国 | ○ | | | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 15 | 車 | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | |
| 16 | 子 | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | |
| 17 | 語 | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| 18 | 心 | ○ | | | | | | | | ○ | | ○ | | | |
| 19 | 好 | | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | ○ | |
| 20 | 食 | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | | | ○ | |
| 21 | 大 | | | | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 22 | 力 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 23 | 父 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | | |
| 24 | 月 | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 25 | 出 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 26 | 年 | | | | ○ | | | ○ | | | | | | ○ | |
| 27 | 何 | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | |
| 28 | 日 | | ○ | | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 29 | 日本 | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | |
| 30 | 花 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| 31 | 母 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | | |
| 32 | 火 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 33 | 人 | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 34 | 本 | | ○ | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 35 | 学 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | |
| 36 | 見 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| 37 | 水 | | ○ | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | |

漢字学習の意欲に影響する要因

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|--|---|--|---|--|---|--|--|---|---|---|--|---|--|
| 38 | 森 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 39 | 休 | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | |
| 40 | 山 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 41 | 雪 | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 42 | 留学 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | |
| 43 | 料理 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | |
| 44 | 私 | | | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |

このように、同じ漢字が「好きな漢字」としても「覚えやすい漢字」としても挙げられたり、出力理由が複数にまたがったりする理由には、日本語能力試験 N4 以下の学生が知っている漢字がそもそも少ないということ、また、日本語力が低い被験者にとって、「好き」と「覚えやすい」が重複した感覚であることが考えられる。ヤンゴン外国語大学では、調査対象の学生が全員 N3 以上の日本語力だったが、ラオス国立大学では、半数以上が日本語能力試験未受験者であった。ラオス国立大学での調査において、漢字、漢字語彙の出力理由に重複が多かったこと背景には、学生の日本語力の問題があったという可能性が伺える。

このような状況において、日本語力が高い学習者と日本語力が低い学習者を、漢字、漢字語彙の出力理由という観点で、単純に比較することは妥当ではないと考えられる。実際、本調査結果を見ると、漢字、漢字語彙の出力理由の延べ数の割合を大学別に見た場合、「意味」は、ラオス国立大学で 43%、ヤンゴン外国語大学で 44% であり、ほとんど変わらない。「形」も、ラオス国立大学で 31%、ヤンゴン外国語大学で 30% であり、ほとんど変わらない。本調査からは、漢字能力の向上に伴い、出力理由として「形」より「意味」が多くなるという結果は得られなかった。

6.3. 被験者が「意味」を理由に出力する漢字、漢字語彙について

最後に、本稿における三つ目の関心事項として、漢字、漢字語彙の出力理由に、被験者自身の出身地域の状況や母文化や学習目的が影響していると考えられるケースについて述べている。本調査では、被験者が出力した漢字について、その場で被験者自身に出力理由を書いてもらい、またその内容について、アンケート直後にインタビューを行うという方法をとることで、被験者が置かれている環境ならではの興味関心について、話を聞くことができた。以下、被験者が提示した出力理由の中から、ラオスで日本語を学んでいることが影響していると考えられるものを、出力された漢字、漢字語彙と併せて示す。括弧の中に記載した出力理由は、被験者がアンケートに書いた通り、あるいはインタビューで話した通りの内容である。

- ・ 家族に関する事柄を表す漢字、漢字語彙
 - 愛 （この漢字は愛情についてのひょうじですから。）
 - 家 （理由は家族といういみです。）
 - 家族（私はいつも家族を思い出す。）
 - 家庭（いいいみだと思います。）
 - 父 （父が大切な人だから。）
 - 母 （母が大好きですから。）
- ・ 生活に関する事柄を表す漢字、漢字語彙
 - 犬 （犬がとても大好きです。私のうちは7ひきかいます。）
 - 魚 （魚が好きです。毎日食べます。）
 - 冷 （冷たい食物が大好きですから。）
- ・ 自然環境に関する事柄を表す漢字、漢字語彙
 - 雨 （私は雨期がすきです。）
 - 海 （ラオスは海がないので、海がほしいと思います。）
 - 桜 （桜を見に行きたい。）
 - 水 （すきです。）
 - 山 （富士山にのぼってみたいですから。）
 - 雪 （日本で初めて雪があった。）
- ・ 将来に関する事柄を表す漢字、漢字語彙
 - 金 （将来、お金持ちになりたいと思います。）
 - 車 （車がほしいです。）
 - 会社（日本の会社で働きます。）

アンケート直後に、記載内容についてのインタビューを行う方法には、被験者が、特に高い関心を持っているテーマを明らかにできるというメリットがある。被験者がインタビューで熱心に話すのは、漢字の「形」よりは、「意味」を手がかりにした「自分の話」である。この時の話題のテーマとして、被験者の出身国の違いに関わらずよく出てくるのは、教室内的での日本語学習に関する事、留学に関する事などである。一方、上記のように、特定の国ならではの事情が反映されたテーマもある。例えば、ラオスであれば、家族関係の強い結びつき、日常生活のこと、ラオスならではの自然環境や、日本にはあってラオスにはない自然環境、国の経済状況を反映した将来の夢などである。このような方法で、学習者の興味関心を明らかにすることは、学習者の学習環境に合わせた漢字学習教材を作成する際、漢字のグルーピングを考える上でのヒントになるだろう。

7. おわりに

本稿は、ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学におけるアンケート及びインタビュー調査結果の比較検討により、日本語学習者の漢字学習について、以下の三つの指摘を行った。本研究における次の課題は、これらの指摘を反映させた漢字教材を作成すること、また、その効果を検証することである。なお、以下の2)については、今後、更に詳しい調査が必要である。

- 1) 日本語学習者による「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由は、大きく「意味」「形」「頻度」の三つである。なお、「好きな漢字」を出力する時の理由には「意味」が多く、「覚えやすい漢字」を出力する時の理由には「形」が多い。
- 2) 学習者の日本語力が低い場合、漢字、漢字語彙の出力理由が複数にわたることが多い。したがって、日本語学習者の日本語力と、漢字、漢字語彙の出力理由の関連については、従来の自由放法から明らかにすることは難しい。
- 3) 日本語学習者の漢字、漢字語彙の出力理由には、学習者自らの出身地域、母文化、学習目的が反映される。

謝辞

今回のアンケート及びインタビュー調査にご協力くださった、国際交流基金日本語専門家の田邊知成先生、ラオス国立大学文学部の35名の学生、ヤンゴン外国語大学の8名の学生に、深く感謝申し上げます。

〈注〉

- 1) 本稿の執筆は、栗原が1・3・4・5・6・7章、関が2章を担当した。
- 2) 本稿では「漢字圏」を「現在、学校教育において漢字教育が行われている地域」、「非漢字圏」を「現在、学校教育において漢字教育が行われていない地域」とする。したがって、本稿においては、韓国、ベトナムなどの、過去には漢字教育が行われていたが現在は行われていない国については、「漢字圏」には含めない。
- 3) 国際交流基金「2015年度 海外日本語教育機関調査」によると、2012年度から2015年度の3年間において日本語学習者数が二倍以上となっているのは、ミャンマー（3,297人から11,301人：約3.4倍）、スリランカ（3,665人から10,120人：約2.8倍）、ラオス（464人から1,046人：約2.3倍）、コートジボワール（1,315人から2,662人：約2.0倍）の四カ国である。
- 4) 加納ほか（1989）の調査では、漢字放理由の判断を実験者が行っているため、「連想そのものが意味によるものか形によるものかを決めかねる（あるいは連想が重複していると考えられる）場合が多い」（加納ほか1989, p.79）と述べられている。また、伊藤ほか（1999）の調査では、漢字放出後にインタビューを行い、改めて被験者に放理由を聞くため、「被験者が手がかりを報告する際に漢字の想起時とは異なる判断を行ったり、想起時以上の解釈を付け加えたりした可能性を排除することができないという問題がある」（伊藤ほか1999, p.348）と述べられている。また、調査後に日本語教師2名が漢字放理由の客観的な判断を行ったところ、被験者の全放出漢字のうち34.2%が手がかり不明あるいは判定不能であったということである。

- 5 ここでいう「パーツ」とは、必ずしも部首のことを指すわけではない。例えば、ある被験者は「豕・家・豚」の関連で、「家」を出力した理由に「パーツ」を挙げていた。
- 6 小数点以下四捨五入という都合上、縦列を計算した合計が100%ではない列もある。

〈参考文献〉

- 伊藤寛子、和田裕一（1999）「外国人の漢字の記憶検索における手がかり－自由放法を用いた検討－」『教育心理学研究』47巻3号, pp.346-353.
- 加納千恵子、清水百合、竹中弘子、阿久津智、石井恵理子、海保博之、出口毅（1989）「自由放法による外国人の漢字知識の分析」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第4号, pp.65-91.
- 栗原由加、関かおる（2017）「非漢字圏における漢字教育に関する実態調査および提言－ヤンゴン外国語大学におけるインタビュー調査を通じて－」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第2号, pp.17-30.

〈参考 URL〉（2018年1月10日アクセス）

国際交流基金「2015年度 海外日本語教育機関調査」

https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2015/Report_all_e.pdf

日本学生支援機構「平成28年度外国人留学生在籍状況調査結果」

http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2016/_icsFiles/afieldfile/2017/03/30/data16.pdf

JETRO 調査レポート「ラオス」

<https://www.jetro.go.jp/reportstop/reports/asia/la/>

〈付記〉

本稿は、文部科学省科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究（課題番号：15K12897、研究代表者：小川早百合）の成果の一部である。